

高等部 生活単元学習 学習指導案

日 時 平成18年11月21日(火)
3・4校時(10:30~12:10)
場 所 高等部2・3年教室
指導者

1 単元名 いろいろな仕事を体験してみよう ～就業体験学習～

2 単元の目標

- (1) 様々な業種の仕事があることが分かり、その中で自分に向いている仕事や、将来やってみたい仕事について体験をふまえて考えることができる。
- (2) 様々な仕事の体験を通して、業種や職場に応じたルールやマナーがあることが分かり、それを守ることの大切さを知る。
- (3) 働く場で生かせる自分の長所や現在の課題に気づき、よりよく働こうとする意識をもつことができる。

3 単元と生徒

本学習グループは高等部2年の女子2名と1年の男子1名、計3名で構成されている。3人とも学校生活全般でリーダー的存在として活躍している生徒達であり、相手や場に応じた言葉づかいや態度を考えながら人とかかわることができる。また、社会的関心や知識も高く、交通機関や公共の施設の利用等もほぼ一人で行うことができる。作業学習等でも、仕事の丁寧さ、正確さ、根気強さ等で高まりが見られ、働くことに対しての自信が深まってきており、いずれの生徒も高等部卒業後は事業所で働くことを希望している。

このうち2名の生徒は「調理師になりたい。」「人と接する仕事がしたい。」というように、卒業後に自分が就きたい職業について希望をもっている。しかし、それぞれの希望は現時点では進路希望というよりは「あこがれ」のようなものであり、その職業に関する知識や情報は不十分である。また、その職業に就くために自分はどうかあれば良いのかという意識が十分に育っていないため、道具や自分の物の管理がしっかりできない、人とかかわり方が自分の感情本意になりやすい等の課題が見られる。残りの1名は、「働きたい。」という希望はあるものの、まだ具体的にどんな職業に就きたいのか、明確な希望をもてないでいる。

これまで、生徒達の、主体的に進路を選択しようとする態度は、様々な職業に関する知識の蓄積を目指した学習に加え、事業所等で行う現場実習を核に培われてきた。しかしながら、現状では現場実習は年2回と機会が限られている。そこで、働くことや様々な職業について、身近にとらえられる就業体験の機会を拡充することで、生徒達の主体的な進路選択につながる経験と思考が一層深まっていくと考え、本単元を設定した。

本単元において生徒達は、行政サービス、製造、清掃、販売の4つの業種の仕事を、公共施設や事業所で体験する。複数の業種での仕事の体験を通して、それぞれの仕事の内容や職場のルール・マナーに対する理解を深めながら、仕事の特性や自分の向き不向き等を比較する機会を得ることができる。こうした向き不向きに気づくことは、仕事をする上での自己理解や目標意識を喚起し、ひいては主体的な進路選択をしていこうとする態度を養っていく。また、実習とは異なり、1週間に2回(2事業所)、各2時間ずつという短時間の就業体験であるため、生徒達の緊張や疲労が少なく、「職場の中で時間いっぱい集中して仕事できた」という意識と経験の強化を図ることができる。そして、生徒達の体験については学校に戻ると即時的に振り返ることができるほか、体験を通して見られた生徒の課題や高まりを作業学習やその他の教科等でフィードバックしたり補ったりすることができる。このほかにも、複数の生徒が同じ職場で就業体験を行うことで、互いに高め合いながら、働く面白さや大変さ、気づきを共感・共有できる。

支援にあたっては以下の点に留意する。

<就業体験>

- ・生徒一人一人の得意なことや特性についてあらかじめ事業所等に伝え、適度な難易度でかつ体験を通して上達が期待できる作業を提供していただくようにする。
- ・作業の仕方がなかなか分からなかったり、失敗が見られたりした場合は、すぐに作業を止め、手を添えてやり方を確認したり、手本を示したり、場合によっては作業内容を代えてもらうなどし、失敗経験やつまずきが強化されないようにする。
- ・必要に応じて、工程表や作業ポイント、心構えを記したカード等を作成し、作業中に携帯・参照できるようにする。
- ・教師も生徒同様、職場に応じた服装になり、適宜一緒に作業をしながら仕事を覚えていく上での態度の手本となるようにする。
- ・職場で学んだ仕事のポイントや手順等で、作業学習やそうじ活動、その他の場面で同様にできるものがあれば学校の中でも積極的に取り入れ、経験の般化を図る。

<校内での学習>

- ・生徒の考えや発言は肯定的に受け止め、良い点も課題となる点も現在のありのままの自分として受け止めることができるようにする。
- ・自分のことだけでなく、友達の良さや課題について目を向け合い、互いに高め合っていく雰囲気ができるようにする。
- ・生徒達が自分の経験や考えを筋道立てて整理できるよう、ワークシートの内容や項目を十分に検討する。
- ・生徒達の興味・関心を高めるとともに、就業体験のオリエンテーションや振り返りがより効果的に行えるよう、視聴覚機器の使い方を工夫する。

4 指導計画 (総時数 78時間)

小単元名	主な学習内容	時数
いろいろな仕事・業種について調べよう	・自分達が知っている様々な職業を業種ごとに分類をする。 ・興味がある職業や業種について、その仕事内容を調べる。	5
就業体験学習をする職場について知ろうⅠ	・〇〇〇〇文化会館、図書館、〇〇刷毛製造、の仕事の内容と、体験が予定されている仕事のポイントを確認する。 ・仕事の内容に応じて、自分達がどのような態度を心がければ良いのか考える。	4
チャレンジ就業体験学習Ⅰ	・〇〇文化会館、図書館、〇〇刷毛製造での就業体験学習	24
働く自分の姿を振り返ろうⅠ～就業体験学習編～	・就業体験学習でがんばったことや、自分の課題となったことについて考える。 ・体験を通して気づいた、各業種の仕事で大切なことについて話し合う。	3
就業体験学習をする職場について知ろうⅡ	・〇〇ビル管理、〇〇の仕事の内容と、体験が予定されている仕事のポイントを「チャレンジ就業体験学習Ⅰ」の経験をふまえて確認する。 ・仕事の内容に応じて、自分達がどのような態度を心がければ良いのか考える。	4
チャレンジ就業体験学習Ⅱ	・〇〇ビル管理、〇〇での就業体験学習	20
働く自分の姿を振り返ろうⅡ～就業体験学習編～	・就業体験学習でがんばったことや、自分の課題となったことについて考える。 ・体験を通して気づいた、各業種の仕事で大切なことについて話し合う。	3
働く自分をアピールしよう	・就業体験学習全体を簡単に振り返る。 ・実習先の方々に向け、自分のセールスポイントをアピールするカードを作る。	2 (本時)
現場実習をがんばろう	・現場実習での心構えや作業内容の確認をする。 ・実習での自分の目標を立てる。	8
働く自分の姿を振り返ろう～現場実習編～	・現場実習でがんばったことや、自分の課題となったことについて考える。 ・就業体験学習と現場実習を通しての自分や友達の成長について話し合う。	5

5 単元における生徒の実態

氏名 (性別)	単元における主な実態	単元を通して目指したい姿
C	<ul style="list-style-type: none"> 様々な職種や業種の違いについてある程度知識があり、卒業後に自分が就きたい職業についても目標意識をもっている。 現場実習等は未経験であるが、生活している施設で行っている系の仕事の経験や、自分が得意なことを過信し、未経験のことでも「簡単にできる。」と考えがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> 行政サービス、製造、清掃・販売の業種の仕事内容について、体験を通して理解を深める。 実際の職場で仕事をすることに慣れる。 自分の課題に体験を通して向き合い、改善を図りながら職場での成功経験と自信を深める。
B	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活にかかわりがある職業については簡単に理解できている。また、将来自分がなりたい仕事について漠然ながらもイメージしたり、話題にしたりできるようになってきた。 疲れや不満などが表情や態度に表れやすく、そのことが働く上でも課題になることを自覚しており、改めていこうと心がけている様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な業種の仕事があることや、それらのおおよそ仕事内容を理解し、自分の進路を考えていく上で役立てようとする。 自分の長所や課題が分かり、職場での成功経験と自信を深めることができる。 笑顔をかかげ、職場の人とよりよくなかかわることができる。
A	<ul style="list-style-type: none"> 知識として様々な職業について広く理解できているものの、職業名と仕事内容が一致していないものもある。働くことも含め、卒業後の自分の生活に対する希望やイメージが希薄である。 作業学習や現場実習等、働く学習の場では気持ちをしっかりと切り換え、けじめある態度をとることができる。責任感や向上心が強く、自分に与えられた仕事は最後までいねいに行おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な業種の仕事があることや、それらのおおよそその仕事内容を理解し、自分の進路を考えていく上で役立てようとする。 自分の長所や課題が分かり、職場での成功経験と自信を深めることができる。

6 本時の計画

(1) 本時の目標

- 就業体験学習での自分のがんばりや課題を整理し、現場実習に生かそうとすることができる。
- 自分の良さを発揮して、実習先の人々とより良くなかかわろうとする意識をもつ。

(2) 個別の目標

氏名	目標
C	<ul style="list-style-type: none"> 就業体験学習のがんばりや課題について、「なぜ良かったのか」「なぜできなかったのか。」という原因についても考えることができる。 実習先の人に好感をもってもらうためにはどうすれば良いのか、自分なりに考えることができる。
B	<ul style="list-style-type: none"> 就業体験の経験の中で、どの仕事の経験が実習に活かすことができるのか考えることができる。 実習先の人に好感をもってもらうためにはどうすれば良いのか、自分なりに考えることができる。
A	<ul style="list-style-type: none"> 就業体験学習の経験をふまえて、現場実習への意欲や目標意識を高めることができる。 前回の実習で自分が気づいたことを、友達にアドバイスすることができる。

(3) 学習過程

時間	学習活動	支援上の留意点			準備物
		C	B	A	
5	あいさつする。 本時の活動の確認をする。	それぞれの生徒の実習先を確認し、就業体験学習で高まった自分たちの力を実習先の人たちにも知ってもらえるようにアピールすることを提案することで、雰囲気盛り上げ、学習に対する意欲を喚起できるようにする。			
15	「はたらくわたしアピールカード」を作る。 ・卒業後にしたい仕事について考える。	スクリーンにアピールカードの記入例等を映し出し、自分のアピールポイントを作成していく上での参考にできるようにする。			スクリーン プロジェクター パソコン ワークシート
15	・就業体験学習のベストショットを選ぶ。	教師も各生徒がよく写っている写真をいくつかピックアップし、その写真に写っている状況や作業のポイント、道具の名前について発問し、就業体験学習の経験をみんなで一緒に振り返れるようにする。			写真プリント
15	・就業体験学習等で自信がかった仕事(得意な仕事)を考える。	得意な仕事や長所をたくさん挙げた場合は、特に自信があることに絞るよう促す。課題点もおさえ目標設定に活かせるようにする。	自分のメモ帳や以前のワークシートも参考に促す。参考にできる事柄を自分で見つけた場合は大いに称賛する。	必要に応じて教師が良かった点をいくつか挙げ、その中からの選択を促す。また、箇条書きでも良いことにする。	はさみのり
10	・自分の長所を考える。				メモ帳
15	・友達の長所を考える。	就業体験学習に限らず学校生活全般を通して、友達の良い点を探すようにする。挙げられた点についてだけでなく、それを挙げた生徒の気付きについても大いに称賛する。			
10	・自分の趣味や実習先の人と話題にしたいことを考える。	伝える相手のことを考え、高校生らしい趣味や話題を挙げるよう促す。	前回の実習の休憩時間に職場の人とどのようにかわっていたのかを一緒に振り返る。また、状況を見てAの経験からのBへのアドバイスを引き出すようにする。		
10	・「はたらくわたしのマニフェスト」を考える。	就業体験学習での経験をふまえ、メモ帳や以前のワークシートを参考にしながら、自分の課題となった部分を克服し、実習の目標につながるようなキーワードを引き出す。ただし、実習先の業種をしっかりとおさえるようにする。			
5	本時のまとめをする。 あいさつする。	アピールカードを活用することで、実習先の人々に自分たちの良さを理解してもらえるとともに、より早く実習先の人々と仲良くなれることが期待できることを告げる。			

(4) 評価

教師：はたらくわたしアピールカードとその項目は、実習への目的意識を喚起する上で適切であったか。
 生徒：就業体験学習での自分のがんばりや課題をまとめることができたか。